

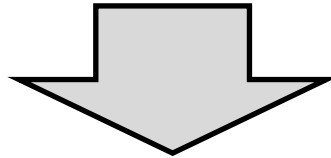
令和3年度 第4学年 授業改善推進プラン

台東区立金竜小学校

○ 教科【国語科】

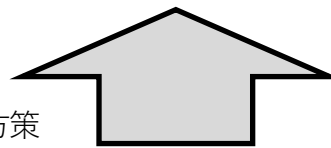
1 児童の状況及び実態

- ・「知識及び技能」については、言語の習得は十分といえるが、漢字の習熟に課題がある。(20%程度)
また、文章を書くときに書きたいこと为中心や理由を明らかにして書く力が弱い。
- ・「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」については内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章構成を考慮することができない児童がいる。(10%程度)
- ・読むことについては、登場人物の行動の変化や性格、情景を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することや、文章を読んで感想や考えをもつことができない児童がいる。(10%程度)
- ・読書活動は好きだが、読み物でなく図鑑や漫画風の本を好んで読む子もいる。(5%程度)



2 学習についての課題

- 【知識及び技能】**
 - ・既習の漢字が定着しておらず、日常生活の中で活用することに課題がある。
 - ・書きたいこと为中心や理由を明らかにして書く力が不十分である。
- 【思考力、判断力、表現力等】**
 - ・内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考える力が不十分である。
 - ・場面や段落のつながりや構成を把握できない児童が多い。
- 【学びに向かう力、人間性等】**
 - ・読む本の種類が偏ってしまう児童が多い。



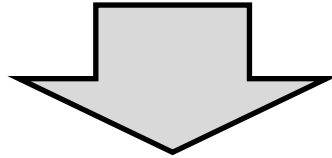
3 授業改善に向けての具体的な方策

- 【知識・技能】**
 - ・朝学習では、漢字のミニテストを行い、習熟を図る。
 - ・まとめの漢字テストで合格できない場合には合格点(80点)に達するまでくり返し取り組ませる。
- 【思考・判断・表現】**
 - ・行事の後には、その行事を通して自分が考えたことや学んだことを書く活動を取り入れる。その際に、「始め・中・終わり」の段落構成とその内容を指導する。
 - ・よく書けている児童の文章を紹介する。
- 【主体的に学習に取り組む態度】**
 - ・各教科の授業の終わりにノートに振り返りを書かせる。習った漢字をきちんと使い、伝えたいことを文章で表現できるように指導する。また、グループ学習を増やし児童が考えを伝え合う場を増やす。

○ 教科【算数科】

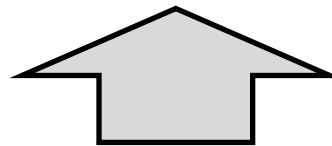
1 児童の状況及び実態

- ・「知識及び技能」については、基本的な計算はできているが、位の仕組みが理解できていない児童がいる。(20%程度)
- ・「思考力、判断力、表現力」については、億や兆の単位を用いた整数の仕組みを基に大きな数の大きさの比べ方や表し方を理解できていない児童がいる。また、図形の問題では、与えられた角や三角形の図形をかいたり考察したりすることが難しい児童がいる。(20%程度)



2 学習についての課題

- 【知識及び技能】**
 - ・位の仕組みや小数の仕組みの理解に課題がある。
 - ・分度器の仕組みの理解が不十分で、正しい図形をかくことができない傾向にある。
- 【思考力、判断力、表現力等】**
 - ・大きな数どうしの大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えられていない児童が多い。
 - ・文章問題において、問題場面を正しく捉えられていない傾向にある。
- 【学びに向かう力、人間性等】**
 - ・授業で、自分の考えを発表する児童が少ない。ノートを自分なりに工夫して書くことは難しい。



3 授業改善に向けての具体的な方策

- 【知識・技能】**
 - ・休み時間や放課後等を活用し、授業内容の理解を定着させるための個別指導を、少人数担当や学力向上推進ティーチャーと連携して行う。
 - ・朝学習の時間に、計算などの基礎・基本の問題とともに、既習事項が定着し、活用できる問題にも取り組んでいく。
- 【思考・判断・表現】**
 - ・問題解決型の授業を中心に行い、自分の考えをノートに書き、グループや集団検討を通して、よりよい考えを書けるようにさせていく。そのために、授業後、教師が児童のノートをチェックし、よい考えを取り上げていくようにする。
- 【主体的に学習に取り組む態度】**
 - ・児童から出た考えから数学的な見方に着目させていけるよう、ポイントを板書し、取り上げることで、関心をもたせ、数学的な見方を育てていくようにする。
 - ・児童の興味関心を高めるために、タブレット PC を活用する場面を増やす。